



善頭エッセイ

はつだて旅便い

「今日もぷらぷら」

138

「暑さもおぼれる、
ときめくお店めぐり」

文月 齊 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？
暑さの厳しい夏だったね。「だった」なんて、なかば願いを込めて過去形にしているけど、過去には9月中旬になっても30℃越えの日が続いたこともあるから、まだまだ油断はできないね。これが北海道の南端とはいえ、函館の話だというから驚く。もちろん過去には、30℃を越える真夏日が10日以上記録された夏もあるけど、僕がこの町に来た当初は、最高気温が一度も30℃を超えない夏もあったからね。今年みたいに、8月を過ぎた時点で30℃越えの日が20日以上なると年は記憶がないよ。

青森県でも同様らしく、八戸から日帰りで遊びに来たという旅人の話では、どんなに暑くても夜になれば25℃以下になるのが自慢だったけど、今年は夜中でも気温が下がらないんだってさ。少しでも涼しいところに行こうと思ひ、初めて青函トンネルを通過して函館に来てみたものの、こっちの方が暑くて驚いたそうだよ。東京から避暑に来ていた僕の友人も、同じようなことを言ってたなあ。来る前には「フリースクールくらい持っていったほうがいいか」なんて聞いていたくらいだから、この暑さにはショックをうけたようだったね。それでも、せっかくだからと事前を立ててきた計画を一つひとつ確実にこなしていたよ。最初に向ったのが函館の隣町、七飯町の郊外でスロウな生活を送るパン屋さん「Pannoma」。

日本語で書くと「ぱんの間」。ほら、茶の間とか、床の間って言うでしょ。自宅にパンのための部屋を作ったので名付けたそうだよ。北海道産小麦と自家製の酵母+天然白口浜真昆布のお出汁で丁寧に作るのが特徴で、体が喜ぶおいしいパンなんだ。そう、君も大好きな間歌泉の町のお出汁。これまた君の好きな新幹線の駅に隣接する酒屋さん「稲村屋」に行ったら、このパンが販売されていたんだ。それ以来、すっかりファンになっちゃったよ。特に僕はイングリッシュマフィンがお気に入り。そんな話をしたことを友人が覚えていたんだね。今回の行きたい場所リストのトップに書かれていた。

午前中から30℃を越えていたので、この日は国道を避けて田園地帯を走る農道を利用。水田の効果か、気温も低く風も爽やかで、窓を全開で走ればエアコンは不要。友人も「これぞ北海道だ」と納得していたよ。

いつもならそのままお店に向うんだけど、手づくりキッチンカーで出張販売しているとの情報が入ったのでそちらに行くことにした。向った先はのどかな住宅街の一角にある雑貨屋さん。まるで建物の一部のように納まったキッチンカーの窓に見慣れた顔を見つけたので話しかけてみた。なんでも、今年はこうして近隣のお店に出没しながら移動カフェを営業しているとのこと。お目当てのマフィンサンドと自家製キウイビネガーソーダを注文し、完成するまでの時間を利用して雑貨屋さんを覗いてみることに。お店の名前は「Bonheur Fil(ポナール)」(※幸せの糸の意)。店主はオリジナルの刺繍ソーイングの作家さんで、店内にはご自身の作品の他、全国約60人の作家さんが作った一点ものの作品がずらり。北海道とSDGsがテーマということだけあって、図らずも店内にはシマネナガをモチーフにした愛くるしい作品が並び、来店者をメロメロにしていたよ。

注文のパンができたよなので、後ろ髪を引かれつつ退出。パンを受け取りながら掲示板を見ると、スタンブラリーの案内が紹介されていた。両店を含む6店舗をまわる設定で、オーガニックショップやお花屋さんもエントリーされていたよ。ほら、七飯町って北海道版幸福度ランキングでいつも上位に入る町でしょ。自宅をお店にしてスロウに暮らしている人が多いので、知ってからおうち始めたんだってさ。12月まで開催しているそうだから、君も秋休みにこっちへ来たら一緒に回ろう。食いしん坊な君の好きそうなカフェもあるからさ。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索